



菅井 理生 / 神奈川県立 神奈川工業高等学校

## キャッチフレーズ

# 超リアル避難訓練

## アイデアの説明

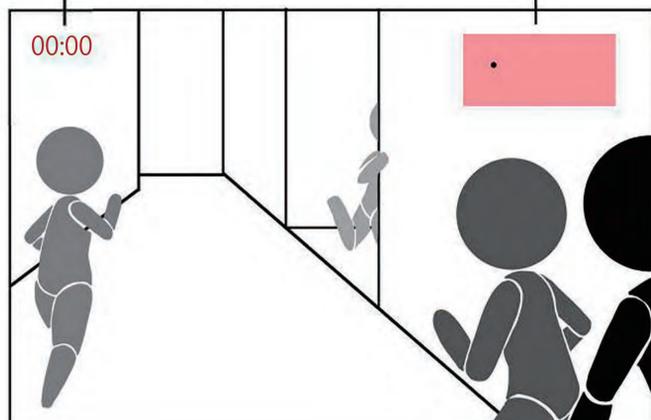
幼稚園の時から続く避難訓練。放送で火事や地震などを想定した避難が行われるが、「その時になったらなんとかなるだろう」「授業時間が減ってラッキー」「学校で火事なんて そうそう起きない」など、楽観的に考える人も少なからずいると思う。学校で避難訓練の指示があり、校庭や体育館に集合するとき、生徒同士の騒音でなかなか先生方の話が始まらなかったりすることはよくある。これらのことから、実際の災害に近い体験をすることで、今までよりさらに緊張感を持って行うことができるのではと考えた。そこで私はもっと危険を身近に感じられるCGを使った避難訓練を提案する。



- ・ヘルメット型の機械  
(負傷しないように)
- ・顎のベルトをしっかりとめる。  
(走るため)
- ・外から見て訓練中だとわかる表示

学校をスキャンして行う  
or  
防災訓練用施設を建てる

内部の画面



- ・タイムリミット機能  
時間を決めることで、  
適度な緊張感を持たせる。

- ・マップ機能  
最短距離、時間の  
短縮に役立つ。

企画の内容は、まず VR のような、自分の動きと内部の映像が連動するようなものを頭部に装着し、中の画面に学校の内部を写せるようにする。そこに火事の煙が接近してきたり、地震が起きたら画面全体が揺れて見えるような機能をつける。危険が近くなってきたら画面が赤くなりゲームオーバーとなる。他の機能としては、

- ・他の人と衝突の事故が起こらないように、人間を感知してシルエットを画面に表示させる。
- ・人の密集度やシャッターが閉められているなどの問題を考慮した最短ルートを計算する。
- ・目安の集合時間を用意し、タイムリミットをつけられる機能を搭載する。

など、小学生や中学生をターゲットとしたアトラクション感もあり、緊張感ももってもらえるような避難訓練である。

この「超リアル避難訓練」は、実際に災害が起きたとき、パニックを起こさず冷静に対応する力、火事の煙が学校中にまわるより早く集団で行動する力を育てる。